

## 第2回(仮称)苫小牧市民ホールWG会議

### 【活動WG】議事要旨

日時：平成28年8月16日(火) 14:00~16:00

場所：本庁舎2階 21会議室

出席：委員3名、事務局3名、北大3名

議題 活動に関するアイデア及び活動事例について

#### ● 活動団体へのアンケートについて

- ・ 資料1のp.1のグラフでアイビープラザの回答数が少ないこと、またp.5の主な利用施設でアイビープラザの回答数が28団体と少ない(実際の利用はおよそ88団体が利用している)ことなど、客観的なデータとして実態を反映していないのではないか。
- ・ 複合化を検討している施設(市民会館、文化会館)の利用団体を中心にアンケートを作成している。
- ・ アンケートの目的と結果に乖離があるため、アンケートの目的や表現を再検討し、アンケートをリニューアルする。
- ・ 市民会館はプロのコンサートなどの鑑賞の場としての規模が求められており、一方、文化会館は市民の発表としての場の規模が求められている。
- ・ 文化会館が一番利用されているが、駐車場の不足など文化会館側の迎える態勢が悪い。
- ・ 文化会館には練習室が多いため、様々な人が利用しやすい。

#### ● その他の意見交換

##### ■ 活動WGでの検討事項について

- ・ 本日のメインテーマが何なのか、よくわからない。
- ・ 「活動」という言葉の意味が広いため分かりにくい、どういった具体的な活動を新しい施設で考えたらいいかを検討することにある。
- ・ 鑑賞や展示も「活動」ではあるが、活動部会では鑑賞部会や展示部会が考えつかない活動を考えていきたい。
- ・ 全国の事例の情報を収集し、思ってもみない活動を勉強することが大事。

##### ■ 組織やマネジメントについて

- ・ 苫小牧市の活動団体を知る機会をつくる：市民にサークル紹介カードを作成してもらい、施設の中に情報提供コーナーをつくる。
- ・ 事例：多摩市の永山公民館では、サークル紹介カードを作成し、市民がいつでもサー

クルを検索できるシステムが存在している。

- ・ 活動団体の情報管理や施設運営を一元化してほしい。
- ・ 「私のあしながおじさん プロジェクト 2015」（可児市文化創造センターにおける、音楽・演劇といった芸術のプロの公演活動を数回連続しておこない、それを地元の中高生が無料で鑑賞できるようにし、文化芸術活動に触れ合えるようにしたもの）などを参考に、苫小牧市でできることを見つけていくのがよいだろう。
- ・ 第二次苫小牧市民文化芸術振興推進計画を作成しているが、予算やマネジメントの問題で実現できていない。

#### ■ 子どもを遊ばせておけるスペースの提案（幼児から中高生）

- ・ 苫小牧市の夏場は霧が出たりして晴れの日が少なく、家の中に閉じこもりがちである。
- ・ 雨天時に、施設内でイベントがおこなわれていて、そこでごはんが食べられるような場所があるとよい。さらに、イベントの様子が外からも伺える諸室のつくり方や場所の工夫があるとよい。
- ・ 事例：九州の国立博物館・あじっばでは、昔のおもちゃや地域特有の身に着けて遊べるおもちゃが置いてあり、触って遊べるコーナーがあり、民族衣装を体験できるコーナーもある。

([http://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition\\_info04.html](http://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition_info04.html))

#### ■ ふらっと立ち寄れる場所の提案

- ・ 札幌駅のABCクッキングスクールのような、おしゃれな料理教室があれば、施設来訪のきっかけになるのではないかな。
- ・ 苫小牧には作家が多いため、札幌市のチ・カ・ホ空間のような、ふらっと立ち寄れる常設の展示スペースがほしい。
- ・ 事例：苫小牧にはエプロン、子供の服、オルゴナイト、ヘナ（染料）など様々な分野の作家が数多く存在しており、年に数回、道の駅または市民会館で展示し、来年は植苗のファミリーセンターでも展示する予定である。
- ・ お弁当を食べる場所や日記を書く場所といった「目的がなくても滞在できる空間」がほしい。
- ・ ぎふメディアコスモスや、アオーレ長岡の事例では、ふらっと立ち寄れるさまざまな場所がつけられている。
- ・ 館内は冷房がかかっているため、夏の暑い意には涼みに行ける、小学校の書道などの展示ができる、扉がいつも開いている、ミニ図書館がある、ごはんが食べられる、コーヒーを飲める、等々。
- ・ 北海道では暖房をかけてあたたまることができるのではないかな。
- ・ 使用料、利用料の割引サービスを充実させると利用者の間口が広がるのではないかな。

- ・ 絨毯が敷かれているところで子供に読み聞かせをするのもよい。
- ・ 演奏会を探してまでは見たいと思わない音楽関連や、華道・茶道などの活動を生で見られるとよい。
- ・ 事例：多摩市のパルテノン多摩における飲食の充実  
複合施設内にホールや子ども向けスペースだけでなく、カフェやレストラン（最近コンビニや喫茶店が多い）など飲食を充実させて人を呼び込んでいる。

### ■ ちょっとした場所の提案

- ・ 若いアーティストの中でグループをつくり、アンサンブルをする人が増えてきているため、そういったグループが演奏できるところで演奏会をしている。
- ・ 名前の知られていない人が演奏できるところ、仲の良い人や昨日会ったばかりの人とセッションできるところ、そういう場所があるとよい。
- ・ ロビーのホワイエの部分に、季節ごとの装飾を作成して展示する事例がある（茅野市民館NPO法人サポートCによる市民館七夕祭り）。
- ・ 花卉市場と取引している業者が苫小牧近郊で切り花をつくっており、品評会の場所を探しているため、季節ごとの花を飾ることも考えられる。
- ・ 市民による趣味の園芸や手作りの小物の展示も考えられる。
- ・ 事例：札幌市の新しい市民交流複合施設におけるアーティストバンク  
若いアーティスト（苫小牧出身者など）の情報を登録することで、出前公演等を希望する市民に広く紹介する制度。苫小牧出身者で関東の大学に進学した若手アーティスト、市内の音楽家やダンサーの応援をする。

### ■ 苫小牧市の音楽活動について

- ・ 吹奏楽部に入部している人は多いが、卒業後に音楽を続けている人は限られている。
- ・ 若い人が集まって音楽を続ける母体や環境が少ない。
- ・ 一方では、活動母体はあるが、年齢層によって入りにくい、という問題もある。
- ・ 活動を継続するための活動、きっかけをつくるのが大事（例：可児市文化創造センター）。
- ・ 事例：多摩市のパルテノン多摩における公演を想定した練習施設  
ホールと練習施設を同じ大きさにすることで本番を想定した練習ができる。
- ・ 音楽活動のスペックとしては、1階に練習施設があった方がよい。練習施設が1階にあることで楽器や道具などの移動がスムーズになるためである。
- ・ ホールの袖の大きさを検討すべきである。例えば、袖が大きいと演奏前に音出しや待機ができ、小さいと音の反響が良い。
- ・ 目的を明確にしてホールをつくった方がよい。例えば、アイビープラザのホールは多目的ホールとして設計されているため、音響設備が悪く、演奏家が離れてしまっている。

る。

■ **札幌市の（仮称）市民交流複合施設整備基本計画 概要版と（仮称）市民交流複合施設管理運営基本計画 概要版についての説明**

- ・ 想定されている規模は約 36,000 m<sup>2</sup>と、苫小牧の新しい施設の3倍ほどの大きさである。
- ・ 本格的なオペラの公演・鑑賞ができるという触れ込みで、高機能ホールの客席が約 2,300 席、規模が約 30,000 m<sup>2</sup>と全体の8割以上を占めている。
- ・ 最終的なアウトプットのイメージとして参考になるのは、（仮称）市民交流複合施設管理運営基本計画 概要版の p.2 から p.4 にかけてで、とくに今回の会議のメインテーマである「具体的な活動の内容」に関連するのは、第3章 事業計画（1）（2）（3）のところであり、熟読して今後の議論の参考にしてほしい。

■ **次回に向けて**

- ・ 次回は、今日テーブルの上に置かれたさまざまな事例の資料を各委員に持ち帰って勉強していただき、今回の議論を整理したものをベースに「具体的な活動の内容」の議論を深めていきたい。

■ **今後のスケジュール**

第3回目：9月26日（月）14：00～@本庁舎2階21会議室

第4回目：10月11日（火）13：00～@本庁舎9階会議室